資料１

【協議①】

# 令和６年度地域内フィーダー系統補助の事業評価について

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

【玉名市の評価基準】
Ａ：目標達成
Ｂ：目標の８割以上
Ｃ：目標の８割未満

令和　年　月　日

**協議会名：** 玉名市地域公共交通会議

**評価対象事業名：** 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | | ⑤目標・効果達成状況 | | ⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 玉名タクシー有限会社<br>有限会社岱洋タクシー<br>有限会社高瀬合同タクシー<br>有限会社アトム | (1)滑石・岱明地域<br>予約制乗合タクシー | 公共交通マップや広報等で情報提供の充実を図った。<br>R6.4月から各エリアの運行時間・便数を統一し、利便性の向上を図った。<br>市HPや広報誌において乗合タクシーの周知を行った。 | A | 事業は計画通り適切に実施された。<br>※災害（台風）により2日間（8/29～30）事業を実施できなかった。 | B | 目標7,200人に対して、6,449人であった。<br>乗合タクシーの認知度が低いことや、利用者の高齢化等による減少により、利用者数が回復していないことが考えられる。 | 新しい生活様式によって公共交通の利用そのものが減っており、利用者のニーズや利用実態をもとに運行便等の変更を検討する。<br>また、「乗合タクシー」の認知度が低いという市民からの意見もあり、引き続き住民への周知活動を実施する。 |
| | (2)大浜・横島地域<br>予約制乗合タクシー | | A | 事業は計画通り適切に実施された。<br>※災害（台風）により2日間（8/29～30）事業を実施できなかった。 | A | 目標3,300人に対して、3,337人であった。<br>新型コロナウイルス感染症による外出控えの緩和や、運行時間・便数の見直し等により利用者数が回復していることが考えられる。 | |
| 産交バス株式会社 | (3)九州看護福祉大学経由<br>玉名駅・新玉名駅線 | 公共交通マップや広報等で情報提供の充実を図った。<br>対象事業(3)の主な利用者である九州看護福祉大学および補助対象事業者と定期的に意見交換を実施し、必要な変更を行った。<br>また、対象事業(4)の利用促進を図るためにR6.5.25に「玉名市街地循環線バス無料の日」を実施した。 | A | 事業は計画通り適切に実施された。 | B | 目標19,100人に対して、15,833人であった。<br>九州看護福祉大学へ通学者において、自家用車での通学が増えていると考えられる。また、福岡市内大学の医療・看護系学科設立や県内の看護系大学への進学などで、通学者自体が減少しているのではないかと予測する。今後については玉名駅前のバス乗り場の変更・整備も含め、市とも情報を共有し進めるとともに、できる範囲で大学側と運行時間の調整を行っていく。 | 新しい生活様式により公共交通の利用そのものが減っており、公共交通を維持・確保していくために、利用者の増加に繋がるよう通勤・通学に利用しやすい運行時間帯への見直しや住民等への周知などを検討をする。<br>また、無料の日などのイベントを開催し、公共交通に乗るきっかけ作りを行う。 |
| | (4)玉名市街地循環線 | | A | 事業は計画通り適切に実施された。 | A | 目標28,200人に対して、34,348人であった。<br>各バス停の毎時発時間を統一することや均一運賃等、「わかりやすさ」が利用の増加につながったのではないかと考える。今後も車内に時刻表を設置したり、各バス停周辺施設（スーパーや病院など）の情報発信など、さらなる利用推進活動に努める。また、市とも連携し「無料の日」を設定し新たなる利用者発掘を行ったり、市広報誌などへの掲載を依頼する。 | |

【参考．⑤目標・効果達成状況】

| | R6目標<br>R5.10～R6.9 | R6実績<br>R5.10～R6.9 | R6目標・実績の差<br>実績－目標 | R5実績<br>R4.10～R5.9 | R5・6の実績の差<br>R6－R5 | R1実績（コロナ前）<br>H30.10～R1.9 | R6・1の実績の差<br>R6－R1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1)乗合タクシー「滑石・岱明地域」 | 7,200人 | 6,449人 | ▲751人 | 6,790人 | ▲341人 | 10,406人 | ▲3,957人 |
| (2)乗合タクシー「大浜・横島地域」 | 3,300人 | 3,337人 | 37人 | 2,713人 | 624人 | 7,190人 | ▲3,853人 |
| (3)路線バス「九州看護福祉大学経由玉名駅・新玉名駅線」 | 19,100人 | 15,833人 | ▲3,267人 | 15,860人 | ▲27人 | 25,900人 | ▲10,067人 |
| (4)路線バス「玉名市街地循環線」 | 28,200人 | 34,348人 | 6,148人 | 32,863人 | 1,485人 | 38,067人 | ▲3,719人 |

別添１－２

# 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和　　年　　月　　日

| | |
|---|---|
| 協議会名： | 玉名市地域公共交通会議 |

| | |
|---|---|
| 評価対象事業名： | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |

| | |
|---|---|
| 地域の交通の目指す姿<br>（事業実施の目的・必要性） | 本市は、熊本県北西部に位置する面積約152k㎡、人口約63,000人の国・県の出先機関、事業所の支店等が集まる県北地域の中心的な都市である。<br><br>市には、鉄道、路線バス等が運行し、市民の日常生活における不可欠な移動手段として広く利用され、本格的な超高齢社会への対応から、その役割がますます重要になっているところである。<br>一方で、運行する路線バスは、長期にわたる利用者の減少傾向と運行維持のために必要な行政負担の増加が課題となっている。<br><br>このような中、平成24年度に「玉名市地域公共交通総合連携計画」を策定し、当該計画の方針の一つ「バス路線の運行の効率化」に基づき市内を運行する2路線への補助を廃止し、平成25年10月から、当該沿線地域である「滑石・岱明地域」及び「大浜・横島地域」に予約制乗合タクシーの運行を開始したところである。<br>また、平成28年10月からは、方針「バス路線の運行の効率化」及び「公共交通不便地域の解消」に基づき市中心部の一定の需要が見込める地域にJR玉名駅を起終点とする「玉名市街地循環線」を運行しているところである。<br><br>令和6年3月には「玉名市地域公共交通計画」を策定し、「誰もが利用しやすく、快適に移動ができる地域公共交通ネットワークの維持・形成」を基本理念とし、利便性の向上と効率的な運行を目指していく。<br>その中でも、幹線と連携した支線的な公共交通の継続的運行を確保し維持していくことが必要であると考えているが、今後の更なる高齢化の進展等を考えると、運行に係る経費を運賃収入で賄うことは困難であること、また、市単独での運行も厳しい状況であることから地域公共交通確保維持事業を活用し、財政負担の軽減を図ることで持続可能な公共交通サービスの提供を進めているところである。 |